



雨にも負けず、風にも負けず、晴れ晴れとしたに入学式でした。

第七十八回入学式では、新入生が担任の呼名により「はい」としっかりと返事をし立ち上がる姿に「中学生になった」という自覚と決意が感じられました。その勇姿を保護者・ご来賓の皆様、在校生、教職員全員で見届けました。また、在校生は、そんな新入生（後輩たち）を後押しするかのように後方から微動だにせず見守り、式歌「COSMOS」を立派に歌ってくれました。外は嵐のような天候でも入学式会場は晴れ晴れとした雰囲気にも包まれていました。新入生保護者の皆様、ご来賓の皆様、入学式にご参加くださり心から感謝申し上げます。

改めて入学式式辞、在校生歓迎の言葉、新入生代表の言葉を掲載します。

<<式 辞>>

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。また、本校PTA会長 西山 智(にしやま さとし)様を始めご来賓の皆様におかれましては、この良き日に当たり、公私ご多忙の中、北区立稲付中学校 第七十八回入学式にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。新入生、保護者、本校教職員を代表いたしまして、高い所から甚だ恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、今、一人一人名前を呼ばれた121名の新入生の皆さんは、校長である私をしっかりと見つめ、力強く返事をしてくれました。そんな皆さんからは、中学生になったという自覚と決意が感じられました。その姿を保護者の皆様、ご来賓の皆様、教職員、そして、在校生全員が見届けました。これをもって、皆さんはめでたく北区立稲付中学校の一員となりました。これからの皆さんの成長がとても楽しみに感じました。頑張りましょう。

それでは、たった今、稲付中学校の一員となった皆さんに私から二つのことをお話しします。「自律」と「自立」です。まず、「自律」についてお話しします。皆さんは10年後どんな自分になっているのでしょうか。というよりどんな自分になりたいですか。10年経って「ああ、もっとこんな自分になっていたかったなあ、もっとこんなことをしておけばよかったなあ」と思ってもどうにもなりません。後の祭りです。しかし、今からなら10年後の自分をプロデュースすることができるのです。そのために大切なことが「自律」です。自律とは、「自分の生活に目標を設定し、その目標を達成するための道筋を自分で考え、自分の意思で進んでいくことです。」その真逆の言葉が「他律」です。これは保護者や先生から言われたから行動するというものです。皆さんが、自分はどうなりたいたいか、そのために何をどのようにすればよいのかを考えて行動していくことで「自立」した一人の大人、一人の社会人になれるのです。

しかし、自立した人とはすべて自分一人できる人というわけではありません。何もかも自分一人でできる人などこの世の中に存在しないと思います。「自立」した人とは、自分の目標に向かって進む中で困ったことや困難にたち塞がれたときに相談することができる人、助けを求めることができる人なのです。相談すること、助けをもとめることは目標に向かって進む大切な一歩なのです。また、「自立」した人とは、仲間から相談されたとき、助けを求められたときに力になってあげられる人なのです。そして、そんな「自立」した人同士はお互いのために協力し合うことができるのです。

想像してみてください。自ら考え正しく判断して行動する自分が学習、学校行事、部活動等で仲間と助け合い、協力し合う姿を。中学校生活への不安は吹き飛び、楽しみや喜びにワクワクしませんか。

私たち大人も皆さんの味方であり、強力なサポーターです。自分たちの力ではどうにもならない時は、どうか、私たち大人を頼ってください。それも大切な「自立」です。

保護者の皆様、改めてお子様のご入学、誠におめでとうございます。中学校3年間は、心身ともに成長著しい、極めて大切な時期です。おそらく様々な出来事があることでしょう。しかし、どうかどんなに苦しいことがあってもお互い、お子様と正面から向き合い、お子様とともに前へ進んでいきましょう。私たちが良好な関係を築き、互いに尊重し合いながら共に育てていくこと、これこそがお子様の安心した中学校生活につながるのではないのでしょうか。どうぞ3年間よろしくお願ひいたします。

結びに、地域で育てていただいております稲付中学校に対し、本日ご列席いただきました皆様方の今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、教職員一同、新入生の教育に全力を尽くすことをお誓い申し上げ、学校長としての式辞とさせていただきます。

令和六年四月九日

北区立稲付中学校 校長 名取 秀康

<<在校生歓迎の言葉>>

色とりどりの花々が、咲きそろう季節となりました。新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たちは、みなさんと一緒に学校生活を送れることをとても楽しみにしていました。

今、みなさんはどんな気持ちでしょうか。新しい学校生活に期待を抱いているのではないのでしょうか。しかし、二年前の私は、初めて出会う友達とうまく話せるだろうかなどと、不安と緊張で胸がいっぱいでした。そんな時、稲付中学校の先輩方が気軽に優しく話しかけてくださって、心が軽くなったのを今でも鮮明に覚えています。

私のように、これから始まる中学校生活に、不安や緊張を感じている新入生のみなさんも少なくないと思いますが、そんなときは、みなさんの周りにいる仲間や先輩、先生方を頼ってください。きっと力になってくれるはずです。

中学校では、授業が教科担任制になりますが、教科担当の先生が専門的な知識を丁寧に分かりやすく教えてくださるので、楽しく授業が受けられます。

また、稲付中学校には様々な部活動があり、運動や作品作りなど自分に合った部活動を選んで入ることができます。

さらに、運動会や文化発表会では、クラスや学年を越えて力を合わせるすることができます。クラスや学年を越えて協力することは、ときに難しく、他の人と意見が違うこともあると思いますが、それを乗り越え、みんなでやり遂げたとき、必ず忘れられない思い出になると思います。

私が中学校生活で大切にしていることは「勇気を出して挑戦すること」です。私は今、稲付中学校の生徒会長を務めているのですが、二年生の一学期までは、自分が生徒会長になるとは夢にも思っていませんでした。

それは生徒会長になる前の私が、やりたいと思う委員会に立候補せず、結局その委員会に入れないことを後悔するなど、やりたいことが分かっているのに、挑戦することができなかったからです。そんな私が今、生徒会長を務めているのは、生徒会長の仕事をやりたいと思い、勇気を出して生徒会役員選挙に立候補することを自分で決め、挑戦したからです。あのとき、もし私が挑戦しなかったら、挑戦しなかった自分を許せず、大きな後悔の中で、中学校生活を送っていたと思います。

ですから、新入生のみなさんにもやりたいことがあったら、ぜひ挑戦してみてください。

けれども、挑戦して思うような結果がでなかったり、他の人と意見が違ったりして、挑戦したこと自体を後悔することがあるかもしれません。しかし、そんなときも勇気を出して、もう少し頑張ってみよう、また、意見が違う人の気持ちを思いやり、その人との対話を諦めないでおこうと思い直してみてください。そうすることで思いもよらない結果があったり、新しい発見があったりと、中学校生活がより深く充実したものになると思います。

そのことは、先月卒業された先輩方から、私たち在校生が学んだことです。稲付中学校の先輩方はどんなに苦しく、困難な時でも、他人を思いやる気持ちや、諦めずに勇気を出して挑戦する姿を見せてくださいました。私たち在校生もその姿を大切に引き継いでいきたいと思っています。

私たちも、まだまだ不安に思うこともたくさんありますが、新入生のみなさんもそんな私たちと一緒に、困難なことにも諦めずに、勇気を出して挑戦する中学校生活を送っていただきたいと思います。

そして、新入生の皆さんの稲付中学校での三年間が思い出深い、挑戦に満ち溢れたものになるように、私たち在校生も協力していきます。

最後に、新入生のみなさんの今後のご活躍とご健康を心よりお祈りし、歓迎の言葉といたします。

令和六年 四月九日

在校生代表生徒

<< 新入生誓いの言葉 >>

やわらかな春の日に包まれて、草木が生き生きと輝くこのすばらしい季節に、私たち百二十一名は、この稲付中学校で新一年生として新たなスタートを切ります。

今、私たちの心の中には、あこがれの中学生になった喜びと、これから始まる生活への期待や夢であふれています。どんな友だちができるのか、どんな先生方に会えるのか。そして、小学校にはなかった部活動、臨海教室や運動会などの行事もとても楽しみで、わくわくしています。この中学校で初めて出会うことや、まだ経験したことのない出来事を楽しみながら、全力で頑張ろうと思います。

私がこの中学校に来て感じたのは、大きな「期待」です。中学校は小学校と大きく違うと思います。小学校にはなかった行事、初めて出会う先生方や友だち、勉強の難易度。そういったものが違います。今までなかったことや違うことに挑戦するのは、とても勇気が必要です。私もなかったこと、違ったことに対し、挑戦するのは不安です。しかし、そういったことを知らないからこそ、新しい楽しみをたくさん見つけられると思います。だから、小学校とは別の、どんな楽しみを見つけてことができるのか、大きな期待がふくらんでいます。

私には、この中学校でやり遂げたい目標があります。それは、見直しの習慣をつけることです。私は、小学生のとき、百点をとることを目標にしていたのですが、見直しをしっかりとしないときがありました。そのため、問題を見落としていたり、本当に百点をとりたいときにとれなかったり、後悔をしてしまったときもあります。父に、中学校は百点を取るのがかなり難しくなるから、見直しすることが大事だと、何度も言われていたにも関わらず、当分先のことだと思って、全然見直しをしませんでした。六年生の終わり頃には、そろそろ見直しの習慣をつけておきたいと思っていたけれど、なかなかつかずに中学生になってしまいました。だから、時間はかかるかもしれないけれど、しっかりと見直しの習慣をつけていきたいです。

私たちは、小学校で学んだ「目標に向かって努力すること」を忘れず、さらにひとまわり大きく、人間として成長できるように、多くのことを学んでいきたいと思います。そのためには「挑戦する気持ち」を忘れず、失敗を恐れず、大きな壁にぶつかっても乗り越えられるように、常にチャレンジ精神をもっていきます。そして、立派な中学生になって、先輩方が築いてきた、稲付中学校の伝統を受け継ぎ、よりよい学校を作り上げていきます。そのためにも、一日も早く学校生活に慣れて、先輩方の力になれるよう努力していきます。

今日、私たち新入生を温かく迎えてくださった教職員の皆様、先輩方、またわからないことばかりの私たちですが、よろしくお祈りします。

稲付中学校に入学した今、中学生としての自覚を忘れず、自分の行動に責任をもち、新しい学校、新しい教室、そして、新しい友達とともに、勉強に、行事に、部活動、行事に励んでいくことをここに誓います。

令和六年四月九日

新入生代表生徒